

親子間の連絡頻度、通話は小学4年生、メッセージは小学6年生に拡大 ～考えてみましょう！親子間のスマホルール～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

◆ポイント◆

- ・週1回以上通話する親子の割合は、小学4年生で拡大し約半数に。
- ・週1回以上メッセージのやりとりをする親子の割合は、小学6年生で拡大し約半数に。

1. 調査結果：

1-1. 親子間の通話頻度

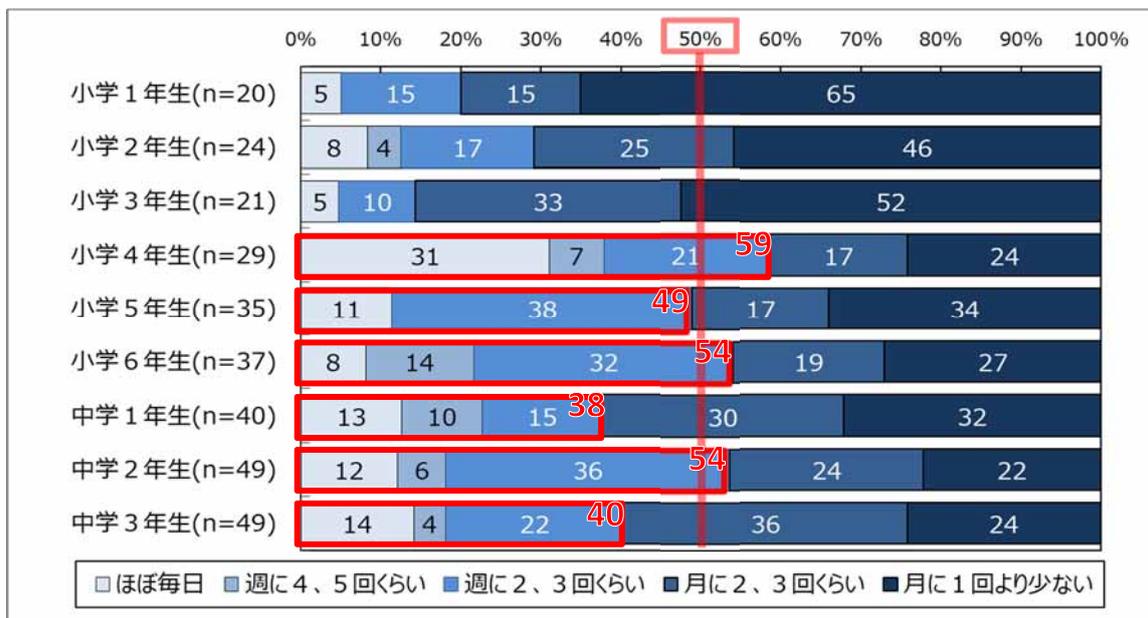
関東1都6県の小中学生に、親子間の通話頻度を伺いました。その結果、親子間で「週に2、3回くらい」通話している子どもの割合は、小学3年生まではスマホ・ケータイ利用者の2割～3割程度でしたが、小学4年生になるとその割合は5割程度まで拡大していました。

厚生労働省の調査によると学童保育所などの放課後児童クラブ利用は小学1年生～3年生までが84%を占めています^[出典1]。保護者は子どもが小学1年生～3年生の間は、放課後児童クラブと連絡をとれば子どもの安否は確認できますが、小学4年生以降は放課後に帰宅するケースが増えたり、塾などに通い始めるなどの環境の変化があり、親子間で直接連絡を取り合う機会が増えると想定されます[図1]。

[出典1]：「平成28年 放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の実施状況(5月1日現在)」厚生労働省

図1. 親子間の通話頻度(SA・学年別)

[調査対象：関東1都6県在住のスマホ・ケータイを利用する小中学生を持つ保護者が回答]



1-2. 親子間のメッセージの利用頻度

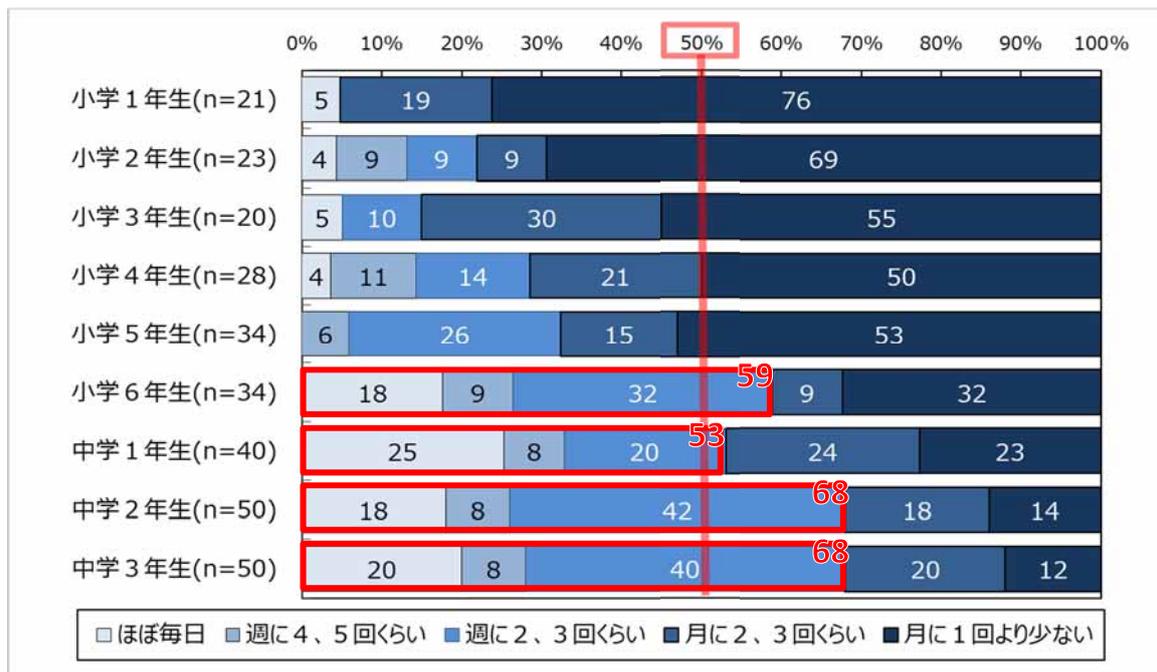
続いて、親子間でのメッセージ(LINE やメールなど)を利用する頻度については、小学6年生で拡大し、小学6年生以上の子どもの約半数以上が「週に2回～3回」以上親子間メッセージを実施していました[図2]。特に小学6年生の子どもは中学受験に伴い、塾へ通う頻度も急増し、親子間通話や親子間メッセージにより連絡を取り合う姿が浮かび上がってきました。

中学生になると親子間の連絡は、通話に代わりメッセージにシフトしていきます。以前のレポートでも「中学入学を機にスマホ利用率が約 8 割に拡大」とお伝えしましたが、スマホの利用率の拡大や、部活や友人とのコミュニケーションが増えることも背景にあるかもしれません。

スマホ・LINE の使い始めは幼少時代の遊びと同じ、親子 LINE をベースに使い始めはしっかりと親が関与し、リスクを伝え、使い方をきちんと教えてあげる必要があります。『親子間でスマホの使い方・ルール』を話し合ういいタイミング。ぜひ、お子さまと話し合ってみてはいかがでしょうか。

図 2. 親子間のメッセージの利用頻度(SA・学年別)

[調査対象：関東 1 都 6 県在住のスマホ・ケータイを利用する小中学生を持つ保護者が回答]



2. 調査概要

調査方法	訪問面接調査
調査対象	関東 1 都 6 県に在住する小中学生の子どもとその保護者
有効回答数	500 組
サンプリング	層化二段抽出[クォータサンプリング法(都市規模別性年代)] 都市規模別人口構成比に応じて、町丁目(50 地点)を比例配分して抽出し、抽出された町丁目において、7~9 歳、10~12 歳、13-15 歳の都市規模別性年代人口構成比に応じて個人を割り当て、該当者をランダムウォーク法で抽出
調査時期	2017 年 10 月

小中学生の方が安心・安全にスマホを利用していただくためのガイドや、スマホ・ケータイ安全教室のご案内を下記の URL で公開しています。ぜひご家庭・学校でご活用下さい。

<<https://www.nttdocomo.co.jp/corporate/csr/safety/>>

■ 問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com